

現状の課題・背景

アマモをはじめとした藻場の減少と地域の海への関心の希薄化が進んでいる。

七尾湾は風光明媚な景観を有し、希少な生物が生息する藻場環境を抱える重要な里海である。近年は高水温などの影響でアマモをはじめとする藻場の減少が進み、海への関心の希薄化、保全活動の担い手不足、多様な関係者の連携不在が課題となっている。#

根本原因の分析

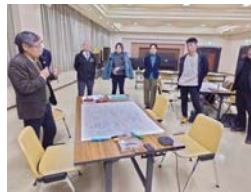
地域の海への関心の希薄化が引き金となって悪循環が発生している。



震災を機に、地域住民、観光事業者、漁業者行政が連携した里海づくりに取り組む。
その拠点となる里山里海アクティビティセンターの創設

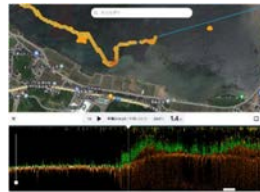
七尾湾里海づくりビジョン

七尾湾づくりのビジョンについて関係者を集めて会議を開催し、「七尾湾里海づくりビジョン」として取りまとめる。



地域参加型モニタリング

地域参加型モニタリングの体制について地域の観光事業者や漁業者の協力を得ながら実施する体制を構築する。



里海インタプリターの育成

七尾湾の自然環境、里海の価値、保全活動の重要性を地域住民や観光客に伝える「里海インタプリター」を養成する。



ビジョン

七尾湾を「子ども達が安心して遊び、学び、誇れる海」として再生。
その恵みを 観光・漁業・地域の暮らし につなげ次世代へ継承する。

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：和倉温泉 めぐる七尾湾里海再生プロジェクト
- ・実施主体：和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会 ・対象地域：石川県（七尾湾）

地域の現状・課題

- 震災復興
- 海水温の上昇
- 藻場の消失
- 海への関心の希薄化
- 保全活動の担い手不足
- 多様な主体の連携

里海づくりの目標 (KGI)

震災からの復興において、七尾湾における藻場の再生に取り組むことで生態系の健全性を維持しながら、地域住民・漁業者・観光事業者・行政が協働し、海の恵みを次世代へ引き継ぐ社会的・経済的仕組みを確立する。そのための拠点となる施設として里山里海アクティビティセンター（仮）を設立する。

R9取組概要

(キーワード)

R8取組概要

(キーワード)

実施項目 (KPI)

- 協議会の運営（関係団体との情報交換）
⇒創造的復興まちづくりのなかでの里海プロジェクトの事業計画策定
⇒里山里海アクティビティセンター設立に向けた準備
- 護岸復旧工事了（継続）
- 自然共生サイト登録申請
- 藻場調査の実施と検証
- 里山における取り組みの検討
- * 実証実験開始と評価

R7取組概要

(キーワード)

実施項目 (KPI)

- 協議会の運営（関係団体との情報交換）
⇒里山里海アクティビティセンター設立に向けた検討
- 護岸復旧工事者との調整
- 自然共生サイト登録について検討
- 藻場調査の実施体制構築
⇒SUPでのモニタリング
- コアマモのポテンシャルの調査
- * 主に現状把握とデータの整理
- * 里海づくりのビジョン策定

実施項目 (KPI)

- 協議会の運営（関係団体との情報交換）
⇒里山里海アクティビティセンター設立・運営開始
- 企業・大学との連携
- 藻場調査の実施と検証
- 里山保全活動の試験実施
- 住民参加型の保全活動の実施
- 里海づくりとしての事業計画策定
- * 事前調査と実証に基づいた事業計画立案と自走
- * 令和9年度には8割の旅館が再開予定

(1) 活動区域：里海づくりの対象エリア

重点取組ゾーン (Core Zone)	和倉温泉周辺海域	震災復興と連動して最優先で整備・実証を行うエリア（自然共生サイト登録候補エリア）
連携推進ゾーン (Collaboration Zone)	七尾湾西湾エリア	漁業・観光・教育など地域主体との連携を進めるエリア
広域展開ゾーン (Expansion Zone)	七尾湾全域	モニタリング・広報・学習などを通じ、里海づくりを広げるエリア



(1) 活動区域：里海づくりの対象エリア

重点取り組みゾーン
自然共生サイト（OECM）登録候補地



(2) 事前調査：現状の把握と調査方法・モニタリング

自然環境	社会環境	自治体の施策	その他
<input type="checkbox"/> 水質（透明度・水温・塩分・DO・クロロフィル） <input type="checkbox"/> 地質・底質（pH/ORP・泥温・粒度組成・強熱減量・全硫化物） <input type="checkbox"/> 生物相 <input type="checkbox"/> 藻場の広さ、場所等 <input type="checkbox"/> 有用種、RDB情報 その他	<input type="checkbox"/> 歴史 <input type="checkbox"/> 文化的特性（祭りや神事等の地域特性） <input type="checkbox"/> 産業構造 <input type="checkbox"/> 人口動態 その他	<input type="checkbox"/> 基本計画や条例 <input type="checkbox"/> 個別の水産・観光施策等 その他	<input type="checkbox"/> これまでの取組 <input type="checkbox"/> 財政状況 <input type="checkbox"/> 課題の整理 <input type="checkbox"/> 里山における保全活動 その他
調査方法①	調査方法②	調査方法③	調査方法④
<input type="checkbox"/> 石川県水産総合センターの調査結果を活用（水質） <input type="checkbox"/> 国立環境研究センターの調査結果を活用（地質・底質、生物相、有用種RDB情報） <input type="checkbox"/> NPECの調査結果を活用（藻場の広さ、場所等） <input type="checkbox"/> 地域参加型のモニタリングを実施（藻場の広さ、場所等）	<input type="checkbox"/> 文献・統計・既存資料の整理（七尾市史、石川県史、七尾市統計書等）	<input type="checkbox"/> 七尾市及び石川県の公式サイトへの調査・整理 <input type="checkbox"/> 七尾市及び石川県の担当部署へのヒアリング	<input type="checkbox"/> 関係機関及び地域団体へのヒアリング <input type="checkbox"/> 関係者を集めた意見交換会の開催

(3) 目標設定と里海づくりの事業計画：KPIとKGIの設定

自然環境：目標	社会環境：目標	自治体の施策：目標	人手の加わり方
七尾湾の生態系が健全に再生し、自然の恵みが循環する海を実現する。 アマモ場や藻場、沿岸の生物多様性が回復し、人の活動と共生できる状態。 そのための仕組みとして自然共生サイトの登録とJBクレジット取得を目指す。	海と暮らし・文化が再び結びつき、七尾湾を誇りとする地域社会をつくる。 漁業、観光、教育が里海でつながる状態。	里海づくりが自治体の政策・制度の中に根付き、行政・民間・地域が連携する体制を確立する。 また、そのための拠点として里山里海アクティビティセンター（仮）を設立する。	地域住民・漁業者・観光事業者・子どもたちが、それぞれの立場で海と関わり、行動する文化を根づかせる。 個々の関与が「参加」から「共創」へと進化する状態。 また、里海を保全するための里山についても保全を行う。
計画①	計画②	計画③	計画④
【重点取組ゾーン】 <input type="checkbox"/> コアマモの生息域の拡大（目標面積はR8年度に決定） <input type="checkbox"/> 敷石におけるガラモの生息域の拡大（目標面積はR8年度に決定） <input type="checkbox"/> JBE申請 <input type="checkbox"/> 自然共生サイト申請 <input type="checkbox"/> モニタリング結果の公開 市民参加型モニタリングを年10回以上実施 観測データの「Seagrass Mapper」等での公開	【広域展開ゾーン】 <input type="checkbox"/> 海をテーマにした学校連携プログラム数 年10回以上 <input type="checkbox"/> 海辺活動・体験参加者数 年100人以上 <input type="checkbox"/> 漁業、観光、教育の関係者が七尾湾をテーマに開催した意見交換会の数 年2回以上	【広域展開ゾーン】 <input type="checkbox"/> 自治体・関係機関間の合同会議開催数 年2回以上 <input type="checkbox"/> 里山里海アクティビティセンター（仮）を設立する。	【広域展開ゾーン】 <input type="checkbox"/> 里海インタープリター育成人数 年10人×3年 実施プログラム数 年10回以上 【連携推進ゾーン】 <input type="checkbox"/> 里山里海保全活動への参加人数年30人以上

(3) 目標設定と里海づくりの事業計画：KPIとKGIの設定

【KGI】里山里海アクティビティセンター創設

- 藻場保全・漁業振興・観光・海洋教育
*拠点化



シナジー発揮



藻場保全



干潟保全



里山保全

【KPI①】藻場の回復 (目標値：藻場面積 R8に決定)

- 1-1：現状把握
*KPI=モニタリング頻度 (SUP：年10回以上)
- 1-2：可視化、モニタリングの継続 *KPI=アプリ開発
- 1-3：藻場保全活動の計画 (対象、時期、内容、回数ほか)
*場づくり



調査研究

【KPI②】人材育成 (継続率・満足度)

- 2-1：学校での授業 (年5回以上)
- 2-2：イベントの企画 (年10回以上)
- 2-3：エコツーリズム催行 (年50回以上)
- 2-4：収益化 (受入数100名以上、売上額500万円)
- 2-5：インタープリター養成 (年10人×3年)
*多様な主体の連携、人材育成



多様な主体の連携



海洋教育



観光



市民参加

【KPI③】自治体施策への反映 (基本計画、条例、活動計画、協定等)

- 3-1：フォーラムの開催 (参画主体数 5団体以上)
- 3-2：自然共生サイトへの登録
- 3-3：各主体との協働プログラム (年2回以上)
*枠組みの構築



農林漁業



森里川海連関

(4) 資金計画 (目標)

(単位：千円)

支出	
里山里海アクティビティセンター設立費	200,000
□建築工事費	110,000
□外構・土木費	45,000
□設備・備品費	20,000
□設計・諸経費	25,000
調査・モニタリング費	720
□藻場	360
□データベース構築 等	360
保護活動費	1,300
□藻場 (旅館からの寄付分)	1,000
□森里川海 等	300
資材費	200
□調査機材	200
普及活動費	120
□教材、広告宣伝費	20
□講師謝金	100
その他	390
□JBクレジット認証発行手数料	130
□一般管理費	200
□会議費	30
□印刷費 等	30
合計	202,730

収入	
観光収入	1,000
□ツアー参加費 (売上の5%)	500
□お土産代 (売上の5%)	500
寄付・補助	201,300
□旅館からの寄付 (売上の1%)	1,000
□補助金	300
□助成金	200,000
その他 (検討中項目)	430
□JBクレジット	430
□融資 等	0
合計	202,730

(5) 実施体制：創造的復興まちづくり推進協議会による実施体制

目指す"里海"像 【子ども達を楽しめる海を次の世代に】

世代継承の価値観

「子どもたちが自分たちも楽しめる海を次世代に残す」という価値観が広く共有

- 漁業関係者、観光事業者、教育関係者など多様な視点から支持
- 海がきれいでいることが観光の満足度に直結
- 子どもたちが海にアクセスし、観察・体験できる観水空間の整備が望ましい

生態系と利用の両立

生態系の多様性を保全しつつ、海の利用を両立させることを目指す

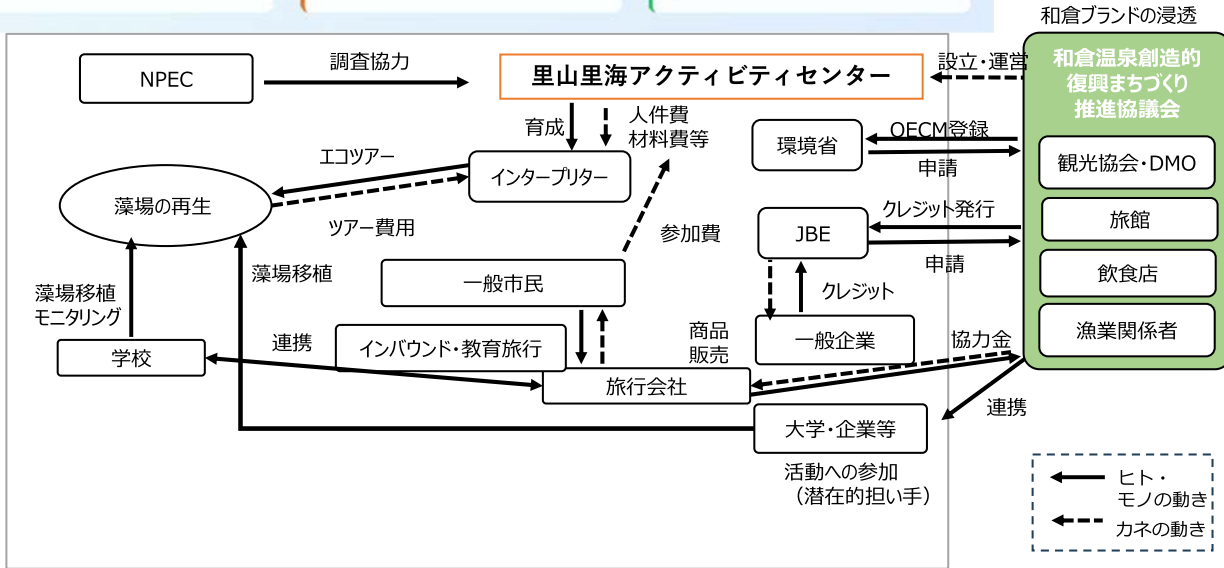
- 旅館からの景観を重視
- 「イイダコ釣りが楽しめる海」の復活
- 漁獲量の増加や多様な魚種が住みやすい海の実現

生物多様性の向上

敷石の有無、浅場と深場、砂泥と岩礁の生物多様性をモザイク状に混在する環境を創出

- 多様な環境は、様々な生物の生息場となり、生態系の豊かさを育む
- 岩をスロープ状にすることで、多様な生物を観察・体験できる空間に
- コアマモ群落や岩場など、多様な環境がモザイク状に存在することが里海の良い状態に繋がる

- 和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会に、関係者の連携体制を構築
- アマモ場を含めた里海としてのブランド価値を高め、経済的に自立し、継続実施するための実施体制を構築する。



令和7年度の具体的レポート

今年度実施内容	今年度実施内容	今年度実施内容	今年度実施内容
<ul style="list-style-type: none"> 意見交換会の実施 (2回) 国交省による和倉温泉の護岸整備との連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> SUPを用いたモニタリング手法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 里海ガイド研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> SUPを用いたモニタリングデータの解析方法の検討
<p>特に工夫した点・取組成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見交換会を通じて目指す里海像及び運営体制について合意が得られた。 護岸整備について今後の連携に向けて、意見交換会との情報共有を行なった。 	<p>特に工夫した点・取組成果</p> <ul style="list-style-type: none"> SUPを用いたモニタリング手法についてNPECと連携して調査方法を取りまとめた。 	<p>特に工夫した点・取組成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月中の開催に向けて準備を行う 	<p>特に工夫した点・取組成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月中にモニタリングデータの解析アプリの仕様内容を確定

R7年度のゴール	<ul style="list-style-type: none"> 七尾湾における里海づくりのビジョンを策定する 七尾湾における里海づくりの実施体制を構築する
----------	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> 保全対象のコアマモの七尾湾における分布の現状と、移植による増殖の可能性のあるエリアが正確に把握できていない。 七尾湾の里海づくりにおけるコアマモの必要性について整理ができていない。 対象種及び範囲を決定した上で、モニタリング手法の開発が必要。
----	---